

戦争と芸術

美の
恐怖と
幻影

**フジタからリヒターまで、
芸術作品に表された
戦争の姿を解剖する**

著・飯田高誉

著者自身がキュレーターを務めた「戦争と芸術」展は京都造形芸術大学国際芸術研究センター所長として同大学アートスペースにて4回にわたって企画され、藤田嗣治、中村研一、横尾忠則、草間彌生、杉本博司、宮島達男、トマス・デマンド、ダレン・アーモンド、ポール・ヴィリリオなど、古今東西のアーティストの作品を展示し、大きな話題となりました。本書は、この「戦争と芸術」展のカタログを元に19アーティストの38作品を厳選して掲載、そこに表された戦争の姿を解剖していきます。また、浅田彰、針生一郎、田原総一郎、Mr.、相澤淳（防衛省防衛研究所）らと著者の鼎談・対談も収録し、「戦争と芸術」を多角的に検証。太平洋戦争時の戦争画だけではなく、広い視野で「戦争と芸術」の間にある一筋縄ではいかない関係性を明らかにする野心作です。



CONTENTS

- 第一章 戦争画
- 第二章 終わらない戦後
- 第三章 イメージにおける戦争
- 「美の恐怖と幻影」戦争画十選
対談・鼎談：鼎談「封印された戦争画」針生一郎+浅田彰+飯田高誉、
対談「戦争と芸術」田原総一郎+飯田高誉、
鼎談「私たちにとって戦争のリアリティとは？」Mr.+相澤淳+飯田高誉
- 付録：年表 世界・国内の出来事と戦争・核問題

●発売：3月24日 ●著者：飯田高誉 ●定価：(本体2,500円+税) ●A5判/288ページ ISBN978-4-8456-2775-2

PROFILE

飯田高誉

東京大学大総合研究博物館小石川分館にて現代美術シリーズを立ち上げ、カルティエ現代美術財団(パリ)にて杉本博司、横尾忠則展キュレーション。京都造形芸術大学国際芸術研究センター所長、慶應義塾大学グローバルセキリティティ講座「政治とアート」の講師、コムデギャルソン[アートスペース Six]アートディレクターなどを務め、青森県立美術館美術統括監を経て、現在、インディペンデント・キュレーター 森美術館理事

貴店印	ご担当者様名	タイトル	ご注文数
		【新刊】立東舎 書籍 戦争と芸術 美の恐怖と幻影 定価：(本体2,500円+税) ISBN978-4-8456-2775-2	冊